

ケア付青森ねぶた  
“じよっぱり隊”

15周年記念  
フォーラム

テーマ  
変わる時代、変わらない絆、そして15年。今、この一瞬に命燃やして



西田さん「じよっぱりの夜」

# ねぶたの輪、 もっと広がれ大きな輪に！

車椅子に乗っていてもねぶた祭りを楽しみたい。

この小さな願いを叶えるためには、大きな力が必要です。

ケア付青森ねぶた“じよっぱり隊”は、

1996年の発足から、年齢や障害の枠を越え、

東北3大火祭り“青森ねぶた”に車椅子のままでも参加できるよう、

介護・医療・福祉の専門職と多くのボランティアによって、

2泊3日の旅を支援してまいりました。そして、

障害のある人もない人も、一人ひとりが社会の構成員であることを認め合うことの大切さを知りました。

何よりも、“じよっぱり隊”の活動を通して、

参加者も支援してきた多くの人たちも、

その後の人生が劇的に変化しています。

“じよっぱり隊”という活動が何を变えてきたのか、何を生み出していくのか。一緒に話し合ってみませんか。



日時 **平成 22 年 8 月 2 日 (月)**

午後 1 時 30 分から 4 時まで (受付は午後 12 時 30 分から)

会場 **県民福祉プラザ 4 階「県民ホール」**

青森県青森市中央 3-20-30

参加費 **無料**

基調講演 「じよっぱり隊は、なにを教えたか」

講師 茨城県立健康プラザ 管理者 大田仁史氏

シンポジウム 「じよっぱり隊は、なにを变えてきたのか、何を生み出していくのか」

シンポジスト 三村三千代氏 八戸短期大学客員教授

リボウィッツ よし子氏 公立大学法人 青森県立保健大学 学長

松崎秀樹氏 千葉県浦安市市長

津田喜章氏 NHK 仙台 アナウンサー



【主催】 ケア付き青森ねぶた じよっぱり隊 15周年記念事業実行委員会

【共催】 青森県立保健大学、青森県すこやか福祉事業団、青森県社会福祉協議会

【15周年フォーラム発起人】

林 光男 青森菱友会 会長・青森県商工会議所連合会 会長

佐々木義樓 青森県学校保健会 会長

福田道隆 財団法人 黎明郷 理事長

リボウィッツよし子 公立大学法人 青森県立保健大学 学長

白取 肇 弘前医療福祉大学短期大学部教授

前田 保 社会福祉法人 青森県社会福祉協議会 会長

【15周年フォーラム実行委員会】

委員長 佐川誠人

事務局長 高杉金之助

事務局 青森県社会福祉協議会



●お問い合わせ●

社会福祉法人 青森県社会福祉協議会

〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ2階

担当：葛西勇樹、棟方 梢

TEL 017-723-1391 FAX 017-723-1394

E-mail fukushi-net-aomori@aosyakyō.or.jp

じよっぱり隊とは……

自己を主張し続けるという意味あいを持たせ、閉じこもりがちな高齢者や障害者が社会のあらゆる偏見や障害に負けずに、逆に相互に支え合う心を育み、命輝けと願いを込め、津軽地方の方言を用いて付けられた名称です。

じよっぱり隊で私は変わった

柔道インターハイでの事故で、  
脊椎損傷の重度障害となる。  
じよっぱり隊への参加が  
自信となり大学受験し、  
現在は大学で建築を専攻中。  
卒業したら、必ずじよっぱり隊へ参加します。



関君

50歳代で脳卒中発症、でも、明るくおしゃれな人気者。チャレンジ精神が旺盛で、じよっぱり隊の活動に触発されて、地元神奈川県川崎市でも、障害者の会の仲間と地元の祭りへも参加をしている。



澤さん

鈴木さん

音楽の先生、脳卒中の重い障害で、  
鼻腔カテーテルで流動食でしたが、  
レセプションの夜に、ソフト食を召し上がり、  
なんとビールまで。その夜からカテーテルを外し、元のハンサムなご主人に、奥様も感激。



高田さん

初めての出産の事故で、意識障害者に。ご主人との長い別居の間にも、子供さんは成長していく。初めての親子旅行を通じて父と子、そして家族のつながりを感じるきっかけになりました。



佐々木さん

鈴隊に7歳で参加、大雨にみまわれながらも、泣かずにゴール。よく頑張った絵梨ちゃんも、今や、医学生になりました。



参加申込書 (FAX017-723-1394)

お名前	様
ご連絡先	〒 -  電話番号 - -
参加ご希望人数	名

\*ご記入いただいた内容は、当フォーラム以外の目的には使用いたしません。